

## JANA シンポジウム

### 看護系学会が今、新型コロナウイルス感染症対策に向けて取り組むこと

#### まとめ

本シンポジウムは、2020年1月下旬に、日本における新型コロナウイルス感染症の患者が確認されて以来、急速に感染が蔓延しパンデミックの状態となるなかで、先駆的に取り組みをされた学会の中から、その取り組み例をご紹介いただき、さらに現場の実践者の方からも実情をお伝えいただくことで、看護系学会が今後の活動に向けた示唆を得るとともに、JANAとしての今後の取り組みについて検討することを目的として企画しました。

開催当日の6月7日には、緊急非常事態は解除されておりましたが、第2波、第3波への懸念があり、また保健医療福祉や、経済活動の復帰には長期的な取り組みが求められる状況でした。シンポジウムでは、まず、JANA佐々木吉子理事より「新型コロナウイルス感染症の対応に関する会員学会アンケート」結果概要が示されました。ご協力頂きました学会の皆様には感謝申し上げます。講演については、日本クリティカルケア看護学会の卯野木健氏より、「COVID-19重症患者ケアガイドライン」作成の経緯、課題と評価、今後の展望についてお話頂きました。日本がん看護学会の渡邊知映氏からは、学会員対象の緊急調査ならびに「COVID-19に伴う 外来がん薬物療法を受ける患者・家族への看護実践の手引き」に対する学会の取り組みを発表頂きました。日本環境感染学会の小野和代氏より、本学会が関連学会との共同のもと、我が国のCOVID-19の感染症対策を牽引された組織的取り組みや意思決定などについてお話頂きました。ウィル訪問看護ステーション江戸川 岩本大希氏より、地域看護、在宅看護におけるCOVID-19感染症対策の実情と課題、学協会に期待することについて発表頂きました。今回とくに注目されることは、社会のニーズを敏感に汲み取られて、組織としていち早く行動されている点です。詳細は、各講師のスライドをご参照ください。なお、スライドの無断転用はご遠慮ください。

講師の発表に続いて、各演者および参加者とのディスカッションを行いました。ここで導き出されたこととして、全ての看護の専門領域で災害への取り組みは必要であること、活動にあたっては、予見しながらプロジェクトチームを結成した迅速な対応や、ガバナンス、リソース、リーダーシップを考慮し、学会間を超えた実務的な連携をしていくことの重要性が示されました。また現場からは、察知されたニーズをアカデミアに繋げることでガイドラインなどの作成がなされると大変有用であることや、これらを、SNSなどを活用して拡散することで現場に届くようにすることや脆弱なところへ働きかけることの重要性も述べられました。今後も継続して情報に敏感になり、学会間でプロダクツの共有などを行いながら、各学会が取り組んでいくことが望まれます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。